

## 新たな土手状遺構発見 一城内で2例目一

きのじょう  
鬼ノ城

総社市奥坂

岡山県古代吉備文化財センターでは、「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業として、鬼ノ城（史跡 鬼城山<sup>きのじょうざん</sup>）の発掘調査を平成18年度から行っています。6年目となる今年度は、第3水門の上流（D区）、北門背後の山頂（C5区）、平成18年度に調査した尾根上（A1-2区）において調査を実施しました。

**D区** 第3水門の上流約80mに設けた調査区です。ここは、ちょうど尾根に挟まれた谷部で、その谷部を両側からふさぐように土手状の高まりが残っています。この土手状遺構（以下、土手）は従来から知られていましたが、未調査のため詳しいことが分かっていませんでした。当センターでは、現地踏査をふまえ、ここにも昨年度発見したような鬼ノ城に伴う土手（所報50号参照）があるのではないかと考え、調査を実施することにしました。その結果、土手は前面と背面に石垣をもつ少なくとも長さ20m以上、幅約6m、残っている高さ約2.5mの堰堤<sup>えんてい</sup>であることが分かりました。



D区 土手状遺構の全景（南東から）



土手は土を盛り上げた後に、石垣を築いていました。石垣は、小さい石を積み上げ、最後に長さが1 m以上の大きな石材を上面にのせているのが特徴です。この土手は、城に伴う施設と考えられ、上流からの大量の土砂が下流に流れ込み、城壁などを壊すのを防ぐと同時に、城内で必要な水も確保する目的があったと考えられます。



D区 土手状遺構の前面石垣

土手状遺構の発見は昨年度に引き続き2例目ですが、全国的にみても古代山城城内の土手の調査例は少なく、貴重な成果といえます。

**C5区** 北門背後にあるこの山塊は、城内で2番目に高い場所です。昨年度の調査で山腹から鬼ノ城の時期の土器が発見されたことから、調査を行いました。その結果、鬼ノ城期の遺構は見つかりませんでした。平安時代の土器が出土し、このころに持ち込まれた石材（集石遺構）が見つかりました。



C5区 平安時代の集石遺構

鬼ノ城は廃城後に山岳仏教施設として利用されたと考えられており、ここにもそのような施設があった可能性が考えられます。

**A1-2区** 平成18年度に調査したA1区きだんじょういの北隣りに位置します。A1区では基壇状遺構や石列、土器溜まりなどが見つかり、兵舎（居住地）ではないかと推測しています。今回の調査でも、柱の穴や焼けた穴などが見つかり、当時の人々の活動の様子がうかがえます。

鬼ノ城の調査は平成18年度から開始しましたが、この調査事業による発掘は今年度で最後となりました。これまでに発掘調査にご協力いただいた関係者あるいは現地まで見学に来ていただいた大勢の方々に感謝申し上げます。来年度は、いよいよその成果をまとめた報告書を刊行する予定となっています。引き続きご期待ください。

**開催イベント** 調査期間中には次のようなイベントを開催しました。参加してくださった皆様、どうもありがとうございました。（金田善敬）

イベント名	開催日	参加者
夏休み少年少女鬼ノ城教室	7月23日（土）	11名
謎の鬼ノ城 城内調査大公開	11月28日（月） ～12月4日（日）	432名
森林体験活動 「ドングリポット苗木植樹」 (岡山県備中県民局・倉敷地域 森づくりの会との共催)	2月22日（水）	15名

開催イベントと参加人数



A1-2区 城内調査大公開の様子

百間川沢田遺跡は、旭川の放水路である百間川の河川敷内に位置しています。昭和52年度から百間川の改修工事に伴って継続して行ってきた発掘調査も、今年度をもって最後となります。

調査の結果、中世の条里制に伴う溝や、弥生時代～古墳時代の集落や水田などが確認されています。このうち、古墳時代前期の集落では、床面積が50㎡を超える大型の竪穴住居や、柱の掘方が溝状になる布掘建物などがあり、調査地周辺が集落の中心地であったと考えられます。弥生時代前期の集落は、深い溝（約幅3m、深さ1.5m）に囲まれた、いわゆる「環濠集落」の北側部分にあたり、竪穴住居が新たに1軒見つかりました。県下において環濠集落のほぼ全容が明らかとなった貴重な成果といえます。（團 奈歩）



古墳時代前期の布掘建物（白線部分）



弥生時代前期の環濠の断面

岡山県の南東部、旧熊山町に所在する製鉄遺跡で、吉井川を北に望む谷奥の斜面に立地しています。平成23年11月から12月の期間、経営体育成基盤整備事業に伴って発掘調査を行いました。調査の結果、製鉄炉はありませんでしたが、硬く叩き締まった面や土坑・溝を確認しました。土坑などの上には、大量の鉄滓や炉壁片が堆積していることから、斜面の高い位置に炉が築かれていたのでしょうか。

出土した須恵器や鉄鉱石から、7世紀初めごろに鉄鉱石を原料とした鉄作りが行われていたと考えられます。（杉山一雄）



遺跡全体の様子



鉄滓・炉壁の出土した様子

奈良井遺跡は県道南浦金光線の道路整備事業と国道2号（玉島笠岡道路）の改築工事に伴って、平成23年6月から発掘調査を行いました。遺跡は東方向に延びる丘陵の南斜面にあり、調査地は標高約25mから35mの範囲に位置します。現地は田畑の開墾によってもとの地形とは大きく変わっていましたが、古墳時代と鎌倉・室町時代の土坑や溝・柱穴などが見つかりました。

調査地の東側で確認した谷部の堆積土から、古墳時代後期（約1400年前）の杯つぎや高杯たかつぎ、大形の甕や壺などの様々な須恵器片が大量に出土しました。これらを観察してみると、集落の遺跡ではあまり見られないような火ぶくれしたものや生焼けのもの、表面が溶けて破片どうしが貼り付いたものといった失敗品や不良品が多く含まれていました。

さらに窯壁片も混じっていることから、今回の調査では窯本体は確認できなかったものの、この周辺で須恵器の生産が行われていたことが明らかになりました。（澤山孝之）



谷部掘り下げの様子



出土した須恵器・窯壁片

こいけだに  
小池谷遺跡

小池谷遺跡は、平成23年9月まで調査を行った及遺跡およびの北にある丘陵上に位置しています。

丘陵の尾根や斜面では弥生時代中期の集落跡を確認していますが、特に注目すべきものとして直径8mを測る堅穴住居があります。6本の柱によって支えられた住居の屋根には、茅を葺いた上に土がのせられていたことが分かりました。この土屋根の存在が明らかとなったのは、調査の過程で焼土に覆われた炭化材が出土し、何らかの原因により焼け落ちた“焼失住居”であることが大きな理由です。弥生時代にこの住居で暮らしていた人にとっては大変不運な出来事であったと思いますが、私達にとっては当時の住居構造を知る貴重な資料となりました。

また、室町時代の終わりごろにつくられた塚は長さ9m、幅6mの長方形に土を盛り上げていました。墓穴が15基掘られており、なかには備前焼の骨壺が納められたものもあります。丘陵南裾部の及遺跡では同時期の集落跡が見つかることから、ここに暮らした人々が葬られたと思われます。（松尾佳子）



弥生時代中期の焼失住居



室町時代の塚

# 津島遺跡活用事業

## ■津島遺跡文化財講座

津島遺跡の普及と活用を支援するボランティア育成をめざすこの講座も3年目を迎えました。16名の講座生は連続7回の講義と実習、見学などを通して津島遺跡と弥生時代について理解を深めました。



門田貝塚の見学



弥生土器づくり

	開催日	内容
第1回	6/10 (金)	講義：弥生時代の津島遺跡 実習：田植え体験
第2回	9/9 (金)	講義：弥生時代の石器 実習：磨製石包丁の製作体験
第3回	10/21 (金)	講義：弥生時代の米づくり 実習：稲の穂首刈り・粳すり体験
第4回	11/18 (金)	講義：弥生土器の種類と変遷 実習：弥生土器の製作体験
第5回	12/2 (金)	見学：史跡門田貝塚 邑久郷土資料館 百間川沢田遺跡発掘調査現場
第6回	1/21 (土)	津島遺跡セミナー テーマ：農耕成立と津島遺跡
第7回	3/9 (金)	見学：岡山大学考古資料展示室

## ■津島遺跡セミナー

平成24年1月21日(土)に県立図書館で開催しました。講師に九州大学大学院教授の宮本一夫先生と岡山大学埋蔵文化財調査研究センター教授の山本悦世先生をお招きし、『農耕成立と津島遺跡』をテーマにご講演いただきました。110名の方にご参加いただきました。



セミナーの様子

## ■津島やよい体験教室

小・中学生とその保護者を対象に、第1回の「勾玉を作ろう」を5月14日(土)、第2回の「弥生土器をつくる」を10月8日(土)に開催し、39名の皆様が弥生時代のモノ作りを体験しました。



やよい体験教室

## ■津島やよいまつり

11月5日(土)・6日(日)に開催しました。火起こし、稲穂摘み、粳すり、勾玉作り等の弥生体験、津島遺跡クイズラリーなど盛りだくさんの内容でしたが、あいにくの雨模様。来年度もがんばりますので、ぜひお越しください。



やよいまつり

## ■津島遺跡ボランティア

津島遺跡ボランティアは発足2年目、総勢17名になりました。小学校の遺跡見学では、今年からクラスを率いて復元された住居や田んぼを巡り説明を行いました。そのほか、津島やよい農園の整備、やよいまつりやセミナー等への参加など様々な活動を行いました。



やよい広場の見学

## 企画展

今年度センター展示室では計3回の企画展を行いました。第1・2回は「最近刊行された発掘調査報告書から」と題して、美作国府跡をはじめとする13遺跡の調査成果について紹介しました。第3回目は「こうもり塚古墳とその周辺」と題する企画展で、平成24年4月22日（日）までの開催です。平成21年度に閉館した吉備路郷土館の主要展示品であるこうもり塚古墳の出土遺物を展示するとともに、周辺の古墳を映像で紹介しています。



第3回企画展

## 見学・職場体験学習等

今年度は、計31校、1,670名の皆さんが、当センター施設の見学や津島やよい広場の見学、発掘調査整理作業などの職場体験に来られました。24年度もお待ちしております。



津島やよい広場見学

学校種	目的	学校数	児童生徒数
小学校	津島見学	6校	429人
	センター見学	11校	972人
	現場見学	1校	21人
	計	18校	1,422人
中学校	職場体験	6校	16人
	総合学習等	5校	178人
	計	11校	194人
高等学校	総合学習等	2校	54人
合計		31校	1,670人

## 埋蔵文化財担当職員研修会

県および市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした隔年開催の研修会です。本年度は、京都府立大学文学部の菱田哲郎教授と岡山大学大学院社会文化科学研究科の新納泉教授をお招きして2月3日（金）に岡山県生涯学習センターで開催しました。菱田先生には「飛鳥時代の土器の年代と社会の動向」、新納先生には「6、7世紀の古墳の暦年代」についてそれぞれご講義いただきました。



菱田先生の講義風景



新納先生の講義風景



研修会場の様子

## 発掘調査現場の公開

平成23年度に開催した発掘調査現地説明会等の公開行事は次のとおりです。

遺跡名	場所	開催日	参加者数
特別名勝岡山後楽園御舟入跡	岡山市北区後楽園	平成23年 6月19日	510人
百間川沢田遺跡	岡山市中区沢田	平成23年 7月16日	100人
奈良井古墳	浅口市金光町佐方	平成23年 8月23日・24日	146人
百間川原尾島遺跡	岡山市中区原尾島	平成23年 9月15日	72人
小池谷遺跡・小池谷B遺跡	勝田郡勝央町黒土	平成23年11月 1日・ 2日	47人
百間川沢田遺跡	岡山市中区沢田	平成23年11月20日	65人
百間川沢田遺跡	岡山市中区沢田	平成24年 2月25日	160人
辺谷・成ル遺跡	赤磐市奥吉原	平成24年 3月 7日	53人
奈良井遺跡	浅口市金光町佐方	平成24年 3月 9日	53人
		合計	1,206人



岡山後楽園御舟入跡



奈良井古墳



小池谷遺跡



百間川沢田遺跡

## センター収蔵品紹介 vol.11 るっかく ー百間川沢田遺跡出土の鹿角製品ー

岡山市中区沢田の百間川河川敷内にある百間川沢田遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期の川底に形成された貝塚の中から、鹿の角を加工して造られた鳥形短剣状鹿角製品や指輪状鹿角製品が出土しています。

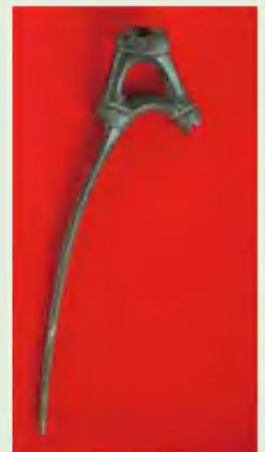
鳥形短剣とは、鹿角が枝に分かれた部分を利用して製作されており、短い方の枝を鳥の嘴くちばしに見立て付けられた名前です。縄文時代中・後期に関東や東北地方で見つかり、晩期には同じく鹿角製の腰飾りとともに西日本でも出土しています。

百間川沢田遺跡の出土品では、鹿角の幹の側を厚さ6～7mmほどに台形に削り、中央に開けられたたれた半円形の窓と頂部の間には、紐を通す穴が穿たれています。また、短い方の枝の先端に十文字に刻みを入れています。剣の身に当たる部分の先端は良く研磨され鋭く尖らせるものの刃を造り出していないことから短剣としてではなく、類似する鹿角製品の出土状態から腰飾りとして使われたと考えられます。

指輪状製品の大きさは、長さ30mm、幅が22.5mm、厚さは8.5mm、重さが2.64gです。輪の内径は、16.5～16.7mmで指輪であれば11号のサイズになりますが、全国的にも類例が無く、実際に指輪であったかどうかは分かりません。ただし、この2点の近くからは鹿角製管玉も出土していることから、特定の人が身につけた装飾品と考えて良さそうです。

この写真の2点は現在、古代吉備文化財センターの展示室で見学することができます。

(弘田和司)



鳥形短剣状鹿角製品



指輪状鹿角製品

## 平成23年度各課事業一覧

### 〈試掘・確認・発掘調査〉

課	遺跡名 (所在地)	調査原因	種別	調査の内容・成果	調査期間 調査面積
調査第一課	神明遺跡ほか (総社市小寺ほか)	一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事	試掘確認	10か所のトレンチを設定し、弥生時代の遺物包含層、弥生時代の土坑を確認。	11/24～12/22 60㎡
	(岡山市北区一宮山崎ほか)	一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事	確認	6か所のトレンチを設定、遺構確認されず。	7/25～8/2 57㎡
	岡山城三之外曲輪跡 (岡山市北区出石町)	岡山城三之外曲輪跡における埋蔵文化財確認調査	確認	8か所のトレンチを設定、遺構確認されず。	5/18～5/25 31.5㎡
	特別名勝岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)	特別名勝岡山後楽園整備	確認	3か所のトレンチを設定、岡山城との行き来に使用された御舟入の雁木を確認。	6/1～6/21 101㎡
	特別名勝岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)	特別名勝岡山後楽園整備	確認	2か所のトレンチを設定、遺構確認されず。	1/23～1/30 7.4㎡
	特別名勝岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)	特別名勝岡山後楽園烏帽子岩基礎部確認調査	確認	2か所のトレンチを設定、烏帽子岩基礎部の構造を確認。	1/25～1/26 0.78㎡
	泉福寺跡 (笠岡市篠坂ほか)	県道山口押撫線単車道路工事	確認	2か所のトレンチを設定、遺構確認されず。	11/18 9㎡
	長崎鼻遺跡 (玉野市築港)	自然崩壊対策	全面	弥生時代の土器棺を検出。	2/17～2/20 12㎡
史跡 鬼城山 (総社市奥坂)	城内の確認・整備・活用	確認	飛鳥時代の古代山城。城内の3地点を調査、第3水門上流の土手状遺構のほか、飛鳥時代の被熱土坑を検出。	7/1～12/28 1,350㎡	
調査第二課	百間川沢田遺跡 (岡山市中区沢田)	旭川放水路改修	全面	弥生～古墳時代の集落。古墳時代の住居、布掘建物、弥生時代の環濠を検出。	4/1～3/31 3,620㎡
	百間川原尾島遺跡 (岡山市中区原尾島)	県営住宅原尾島団地第2期建設工事	全面	弥生～古墳時代の集落。弥生時代の水田、縄文時代の遺物包含層を確認。	8/1～10/3 350㎡
	辺谷製鉄遺跡ほか (赤磐市奥吉原)	経営体育成基盤整備(奥吉原地区)	全面	古墳時代の製鉄遺跡。土坑、貼り床面のほか、鉄滓層を確認。鉄鉞石が出土。	11/1～3/31 1,529㎡
調査第三課	宮原遺跡・奈良井古墳ほか (浅口市金光町佐方)	一般県道南浦金光線単車道地方特定道路整備	全面	宮原遺跡では縄文時代の流路から土器や石鎌が出土、奈良井古墳は直径約10mの7世紀代の円墳。	4/1～9/30 2,154㎡
	奈良井遺跡 (浅口市金光町佐方)	一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事	全面	古墳時代と中世の遺構を検出。谷部から焼成不良の須恵器や窠壁が出土。	10/1～3/31 2,919㎡
	及遺跡・小池谷遺跡ほか (勝田郡勝央町黒土)	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	全面	及遺跡で鎌倉時代の粘土採掘坑群、室町時代の建物跡を検出。小池谷遺跡で弥生時代の集落跡、古墳時代の円墳、室町時代の塚を検出。	4/1～3/31 12,943㎡

### 〈報告書作成・刊行〉

課	報告書作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)
調査第一課	史跡 鬼城山	
調査第二課	北溝手遺跡ほか、南方遺跡、百間川原尾島遺跡、百間川沢田遺跡	県報告234(南方遺跡)、県報告235(窪木遺跡 南溝手遺跡 北溝手遺跡)

## メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

### 岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内
  - ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
  - ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。  
ただし、臨時に休館することがあります。

